

中国語ほどではありませんが、英語の発音の種類は相当多いのです。100の単位で数えるほどあります。たとえば、私たちが「ア」と発音する、これに所属する音の種類だけでも五つあります。だから発音記号も五つの別があります。

しかし、日本人にはそれは聞き分けられません。発音するときも、それを区別して発音するのは非常にむずかしいことです。

世界で日本人ほど外国語を話すのがヘタな民族はいないでしょう。しかしその理由を考えた人がいますか？ その理由を考えて解決しなければ、相変わらず外国語はダメなままです。

日本人が外国語を完璧にマスターする方法は一つしかありません。幼児期に外国語を学習させればよいのです。それ以外に解決方法はありません。英語は幼稚園で学習させるべきです。

中国では、日本人より流暢な外国語を話す人が大勢います。中国語は、言葉の音韻が多いことがその理由です。日本語は語彙は多くても、発音の単位が世界で一番少ないため、音韻の区別を聞き分けられないのです。

したがって、英語教育は小学校から始めてもむずかしいのです。小

学校でやっても、もう耳は対応できなくなっています。聞き分ける能力は、とうに失われています。幼児期、少なくとも小学校に入る前にやらなくてはダメです。

もっとも、日本人教師に頼んでは意味がありません。むしろやらないほうがいいくらいです。日本人が正しい発音ができないのは、どうしようもない宿命のようなものです。日本語にある音韻を使ってしか発音できないので、英語の音を使いわけるのはほとんど不可能でしょう。多少お金がかかっても、イギリス人とかアメリカ人に教えてもらうべきだと思います。要するに、幼児期に聴く耳をつくれればよいのです。聴力をつけておいて、後になって英語を聴いたときに、どんどん吸収できる耳にしておけばよいのです。この耳を育てるのは、幼児期しかありません。幼児期に英語を学べということには、そのような理由があるのです。